

平成30年度 第1回西区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成30年度6月28日(木)午後1時15分から
会場	西区役所健康センター棟3階 大会議室
出席者	西区自治協議会委員 出席24名(欠席12名) 教育委員:沢野教育委員、上田教育委員 事務局:教育長、教育総務課長補佐、地域教育推進課長補佐、学校人事課副参事、学校支援課副参事、坂井輪図書館長、坂井輪地区公民館長、西区教育支援センター所長 西区役所:区長、副区長、地域課長、地域課長補佐 傍聴者:1名
議事	1 開会 2 挨拶(教育長、沢野教育委員、上田教育委員) (「通学路等における危険箇所の総点検」の今後のスケジュールなど説明 学校支援課) 意見・質問(司会 西区教育支援センター所長)
自治協委員	通学路等における危険箇所の総点検の流れについて説明を受けましたが、西区では夏休み中に西区一斉クリーンデーを行います。私どもの地域では、学校の通学路を確認しながらごみを拾って、終着は学校というかたちになっています。 西区一斉クリーンデーの文書は、各町内・関係団体に回覧されるはずなので、その中で今回の危険箇所の総点検を含めた一斉クリーンデーだとお願ひすれば別々にやらなくとも1回で済むことになりましたがいかがでしょうか。
教育委員会事務局	2回もやるというのは非常に手間になるかとは思いますが、後ほどまた課に戻り相談し、お答えしたいと思います。
自治協委員	安全マップについてですが、何年か前に各小学校で随分立派なマップが作成されましたが、夏休み前に配るマップとは、そのことを指すのでしょうか。
教育委員会事務局	数年前に安全マップを作成されたということですが、今回の危険箇所の総点検会議では、そのマップを使って、さらに危険箇所として新たに洗い出されたところを少し付け足すようなかたちになります。
自治協委員	危険箇所の総点検ということで、地域からも参加し実施しているとの報道がありました。どうにかたちで地域に声がけがなされ、選ばれているのでしょうか。
教育委員会事務局	学校が会議に出席してほしい地域の方々を選んで声がけをしています。例えば、子ども見守り隊や民生委員、青少年育成協議会、自治会長さんなどに声がけをしたと考えています。
自治協委員	自治会長に何の相談もないし声掛けもないようだが、コミュニティ協議会に相談した結果でそうなったのでしょうか。
自治協委員	各自治会に直接、声がけは行ってないと思います。今回、私の地域で行った総点検会議は、コミュニティ協議会と小学校との共催というかたちで開催しました。各自治会はコミュニティ協議会の構成団体で、その他の構成団体である子ども見守り隊やPTA、民生委員などの地域の方々からも参加してもらって、総点検会議

司 会	<p>を開催しました。</p> <p>総点検会議の日程調整については、西区教育支援センターで取りまとめをしていますが、各小学校から提出していただいた資料の、参加依頼予定の地域団体を見ますと、コミュニティ協議会だけに声がけをしている学校も若干あります。声がけする地域団体については、各小学校が地域の実情に応じて判断している状況です。</p>
自治協委員 司 会	<p>全ての自治会長に声がけをしてほしいです。</p> <p>(今後、総点検会議を開催する学校については、自治会長への声がけを行うよう)検討したいと思います。</p>
自治協委員	<p>危険箇所の総点検の中で、夏休み中に親子が会話を交わしながら、実際に通学路やそれ以外の所を歩いてみることは、とてもいい企画だと思います。就学前の子どもを持つ保護者には必ず、どうか入学する前に親子で学校まで歩いてくださいとお願いをしています。夏休みだけでなく、1年生や入学前の子ども達にそういう機会が大事だということもPRしてもらいたいです。</p>
教育委員会 事務局	<p>事件が起きた以降、教育委員会をはじめ警察、学校、地域の方々が本当に精力的に昼夜分かたず頑張ってくださったことはよく承知していますが、県知事が所信表明で言った未然防止にも力を入れていかなければならないと思います。今回の事件について、教育委員会の中で未然防止に関わるような話題がなかったのか、あった場合はどんなことが話題になったのか、教えてほしいと思います。</p> <p>教育委員会では、地域での子どもの見守り体制については、子ども見守り隊という地域の方にお問い合わせをして見守ってもらっています。また、子ども達には自分の身を自分で守られるよう、不審者に会ったときにはどのような行動をとらなければいけないのかといった教育を学校で行ってきました。</p>
前田教育長	<p>登下校時の子ども達の見守りということでは、子ども見守り隊のほかにスクールガードリーダーという警察OBの方が指導して回るということも教育委員会ではやってきました。また、市長部局でもコミュニティ協議会や防犯ボランティア団体等に見守りをさせていただいたり、青色回転灯の車で巡回したり、子ども達に体験型の安全教室を実施し、不審者が来たらランドセルなんて放って、とにかく逃げるよう指導したりしてきました。かつての池田小学校での事件もあって、学校の安全をどうするのか、登下校もそうですが、子ども達自身が危険を察知して対処する力もつけなければならないと思っています。</p>
自治協委員	<p>今回の事件では防犯カメラの話が多く出ていますが、教育委員会の中では、なかなかそこまで話はいきませんでした。学校の中にも外にでも、地域の皆さんからの目が必要ということで、そういった取り組みをずっと継続して行ってきました。</p> <p>報道によりますと、今の子ども見守り隊の方々が高齢化し、見守り活動ができる人が少なくなっていることが大きな課題となっていて、その対策として、その地域の企業の方々が応援してくれていると伝えていました。そういったところも参考にしながら、本市としては見守り活動をどうやっていかれるのでしょうか。</p>
前田教育長	<p>企業からの応援としては、例えば宅配業者の方々に見守りをお願いしたり、かつてはながらパトロールのステッカーを貼って、郵便局など普段地域を回っている</p>

	<p>ところをお願いしたりするなど、様々な企業から見守り活動への協力をいただいています。</p>
西区役所	<p>今回の事件を受けて、防犯ボランティアネットワークに加入したいとの申し出のあったタクシー会社が1社あり、今後加入する予定になっています。</p>
自治協委員	<p>私は小針小コミュニティ協議会の一員ですが、ぜひとも西区一斉クリーンデーの日を西区一斉防犯デーの日にもしてもらおうことで、区民の意識を高めてほしいという意見が強く出ていました。また、こども110番の家がありますが、なっていた方が分からないので、face to faceの関係が必要ではないかという意見も出ていました。</p> <p>ぜひ親子で通学路を歩く中で、こども110番の家の方に声がけしたり、夏休みの最後の日の集団下校時に、こども110番の家の方にも店先まで出てきていただいて、子ども達と顔を合わせてもらったりすることができれば、何かあったときに、子ども達が安心してこども110番の家に逃げ込む気持ちを持てるのではないかと意見も出ていました。</p>
自治協委員	<p>坂井輪中学校区まちづくり協議会では、昨年から子ども達と一緒に地域安全マップを作る活動を実施しています。子どもというのは1回自分でやってみて、地図に落としてみることで、子どもの中ですごく印象に残るのだなと感じました。</p> <p>子ども達は、通学路だけではなくて、どこに行くか分からないくらい、地域の中で活動しています。西区では子どもが安全マップを作る取り組みはまだ少ないのですが、地域でその取り組みを広げていく必要があると考えています。夏休み中の児童と保護者による通学路の確認をする中でも、どうしても保護者は通学路という交通安全の視点が強くなるので、防犯の視点に切り換えるような説明や働きかけが必要ではないかと思えます。</p>
議 事	<p>3 平成30年度教育委員会の施策について(教育長)</p> <p>4 意見交換</p>
自治協委員	<p>「第二次多忙化解消行動計画」との説明がありました。最近、学校の教職員がこれだけ過酷な労働となっている大きな要因を、私ども地域も考えていかなければだめだと思っています。祭りなど様々な地域行事に、学校を巻き込んでやると、教職員に相当の負担がかかります。地域が何でもかんでも学校の教職員頼みではやはりうまくなく、地域としてできることは地域ですということが大前提であると考えています。</p> <p>また、ある新聞に子ども達に教えるべきことより地域や保護者への対策に時間が費やされていて、教職員のなり手がいないという記事がありましたが、これからは学校と地域が連携して何ができるかを基本から見直した方がいいのではないのでしょうか。何でもかんでも学校頼り、何でもかんでも地域頼りということではなくて、一回ゼロに立ち戻って考えることも必要と思っています。</p>
教育委員会事務局	<p>学校も地域の方やPTAの方をお願いするところがたくさんあります。すべてをやめる必要はありませんが、本当に今のままでいいのか、子ども達のために本当になっているのか、省略できることはないのかという視点を持って、今ある活動を見直していただくことは大事なことです。</p>

団塊世代の退職もあり、教員の新規採用人数は増えているのですが、教職員を希望するなり手が少ないという現状があります。本市では働き方改革を進めて、地元の大学だけではなく、首都圏の大学にも出向いていき、新潟の学校や教育の魅力を伝えたり、退職されたベテランの先生方の力を借りたりするなど、人材の確保に今も努めているところです。

自治協委員 学校の先生方から、ぜひ子ども達に地域の防災や自治防災訓練への参加を声かけしてもらい、それが地域の力になることを伝えてほしいと思います。

自治協委員 配布資料の中で、基本施策が13項目ありますが、これは教育ビジョンの13項目と一緒ですね。右側の黄色い所は色が変わっているが、これはどういう意味で色を変えているのでしょうか。

また、4番目の共生社会の実現を目指すインクルーシブ教育システムの推進、10番目の学びのセーフティネット構築について、具体的にどんな取り組みがあるのでしょか。

前田教育長 この黄色で囲った部分の事業は、本日説明したものです。生涯を通じて学び育つ学習機会の充実や、地域と学校・社会教育施設が協働する教育の推進という括りに入っている事業を、先ほど説明させていただきました。

また、共生社会の実現を目指すインクルーシブ教育システムの推進ですが、特別支援教育、特別支援学級、特別支援学校というのもあり、例えば特別支援学級の子どもであっても、同じ学校の他のクラスの子ども達と一緒に学び暮らしていく、要は障害の有無などで区別をしない気持ちを育てるということです。インクルーシブ教育とは「包み込む」「みんなで一緒に」というもので、障害のある子ども達などを別にすることではなく、そういう子ども達も含めて一緒に教育を推進していきましょうということです。

次に、学びのセーフティネットについては、防災教育や安全教育、学校施設の整備の他に学びを支援する事業も含んでいます。例えば、低所得世帯への経済的な支援をすることで、みんなが平等に学べる環境を整える就学援助事業などがそうです。具体的な事業としては、地域見守り活動支援事業や、学校施設の改築や大規模改修を実施する中で危険のないようにする事業、学びを支援する体制としては、就学援助事業や奨学金の貸付事業がこの中にあたります。

自治協委員 29年度で一部停止になった事業はありますか。

前田教育長 支給基準の見直しなどをしたものはありますが、取り組み自体を停止したものはありません。

自治協委員 本日の基本施策にあった事業は、教育ビジョンの中のものの一部でしょうか。

前田教育長 教育ビジョンの中には、確かな学力の向上という項目があり、その中で社会の変化や新たな課題に対応できる教育とか、学び続ける資質・能力を育むキャリア教育の推進というのがあります。また、この下にもいろんな項目がぶら下がって、その下にまたさまざまな事業がたくさんついています。今日ご説明した事業は、その中で地域の皆さまに協力していただいている事業をピックアップして説明したものです。

自治協委員 長時間勤務を解消する6つの視点の中で、地域としてすぐにも対応できるのは

この4番だろうと思っています。現役を引退した先輩方でも、いろんな技術や才能を持っている方はいっぱいいます。学校側と腹を割ったお話し合いをして、よし、じゃあこの辺は一つ地域でやろうと、こんなことで進めれば4番は一番大事だと思っています。

教育委員会
事務局

学校の多忙化のことに限って言うと、全体の仕事量が減らせない中で、正規の人間がなかなか増やせない現状であるため、教職員でなければできないこと、教職員でなくてもできること、あるいは学校と地域が連携することでできること、そういった視点で学校の仕事にいかにか地域から力を借りられるかが、本当に大事なことだと思っています。これからも校長会等を通じて、ぜひ校長にも直接啓発していきたいと思います。

自治協委員

教職員が増えれば、また税金に跳ね返ってくる話にもなります。地域と学校との結びつきがやはり大事だと思いますので、今後もよろしくお願いします。

自治協委員

多忙化解消についてですが、私は学校が1番多忙になるのは、何か事件が起きてしまった後だと思っています。未然防止できた場合と、事件が起きてしまった場合とでは、教職員や教育委員会の多忙感は全然比較にならないほど違います。未然防止というのは本当に難しいのですが、それでもやらなければ、教職員や教育委員会がますます多忙になってしまうのです。お互いに努力していけたらと思っています。

自治協委員

私は、配付資料の最初のページにあります「大好きにいがた体験事業」の、「大好きにいがた」というフレーズが大変好きなのですが、地域の人間としましては、私たちが一番関わりやすい事業ではないかと思いました。

この事業を通して、小中学校で郷土愛とか地域愛とかを学ぶ様々な体験ができ、本当にいい事業だと思っていますが、その後に子ども達が高校や大学へ進学していく中で、それから後のフォローもないと、やはり、子どもの頃は良かったとの思いだけでは、子ども達は県外へ出てしまって戻ってこないのではないのでしょうか。やはり、新潟のイメージについて話すためには、その後の継続的なフォローが必要だと思うのです。

教育委員会
事務局

高校や大学は、教育委員会の管轄外なのかも知れませんが、そういった機関との連携した動きというものを、教育委員会では何か考えているのでしょうか。

大好きにいがた体験事業は、今、委員がおっしゃったように、ただ地域を調べるだけではなくて、自分たちが住んでいる地域を本当に愛せるような大人になって、大学進学などで県外へ出た後でも、新潟に帰ってきたいと思わせるような視点で取り組んでいます。

自治協委員

今ほど高校の話も出ましたが、新潟市内には市立の高校が3か校あります。それらの市立高校では、昨年度から大好きにいがた体験事業を進めています。ただ県立高校に関しましては、教育委員会の管轄外ですので、特にこの事業に関する話はしていないのが現状です。

県立高校になりますと、県で管轄していますよね。これから人口減少社会を迎える中で、これは大事な所だと思うので、子ども達が本当に新潟を好きになってもらうためにも小中学校だけで途切れないよう、高校、大学へ進学してからもさらに

新潟に愛着を持ってもらえる教育を、県と市で連携してやっていかななくてはいけないことだと思っています。

私達に地域、地域と言われても、そのうち地域に戻ってくる子ども達がいなくなれば、地域も成り立たないわけですよね。ですから、子どもの頃から郷土愛だけではなく、様々な場で、地域にどうやって子ども達を居つかせるのか、この地域にどうやって人を呼んでこられるのかということ、学校だけでなく、地域の私達も本当に考えなくてはいけないと思っています。その中の一つとして、大好きにいがた体験事業もあると思いますし、高校は高校でいろいろな事業をしているかと思うので、そこの連携をどうされているのかどうか不安になりましたので、お聞きしてみました次第です。

教育委員会
事務局
自治協委員

市立高校の3か校とは、この大好きにいがた体験事業について連携していますが、県立高校とは特に連携はしていません。今後、検討していきたいと思っています。

先ほど通学路等における危険箇所の総点検に関する話があったのですが、今回は防犯の面からの危険箇所の点検というのが重点になっているかと思っています。一方で、従来から危険箇所と言われてきていたものは交通安全の面が重視されてきていました。

そこで、私が日頃から考えている話を一つさせていただきたいのですが、私の家から、随分小学校まで距離がありまして、2キロあります。農村部ですので、住宅はまばらで、いわゆる昔で言う原っぱというのが結構あります。こんな穏やかな気候のときはいいのですが、真冬に吹雪や降雪があった時には道路が狭くなります。私どもが子どもの頃は車もなかったので、学校まで全員歩いて通ったのですが、今の子ども達は保護者が車で送っていく対応をされているようです。

防犯の面からみても、実際にスクールバスを運行しているところもあると思いますが、ある程度の距離を通学する生徒については、それぞれの学校の事情をよく聞いたうえで、スクールバスも検討していただけたらと思っています。

司 会

ありがとうございました。西区では、黒埼南小学校がスクールバスでの通学がなされていますが、他の小学校では原則、子ども達が徒歩で通学できる範囲に学校があるため、歩いて学校に通っています。ご意見として承りたいと思います。

自治協委員

今回の説明の中にはない事案ですが、通学する子ども達の荷物が非常に重いのではないかという話です。

実は、私の孫が今年から小学1年生と中学1年生になったのですが、その荷物が非常に半端じゃないくらい重くて、また、学校が(宿題となっていない教科書等を学校の机に置いて帰る)置き勉はだめだということで、毎日重い荷物を鞆に入れて通学しています。特に中学生の荷物を計ったら15、6キロもあり、大変重いです。けれど、こんなに重い荷物を持って、毎日子ども達が通学しているため、宿題となっていない教科書を学校に置いてきたらどうだと言ったら、子どもが学校から置き勉はだめだと言われていているということです。このことは、子ども達の健康問題でもあるため、私としては非常に気にしています。

本市の教育委員会では、学校に教科書を置いて帰ることについては、どういう見解なのでしょう。学校は施錠ができることだったので、そういったことも考

慮すれば(教科書の紛失などの心配はほとんどなく)置き勉は可能なのではないかなと思います。三条市の一部の学校では、学校に教科書を置いていってもいいと言っている所もあるらしいのですが、新潟市としてはどう考えているのかを聞きたいと思い、質問しました。

教育委員会
事務局

置き勉に関してですが、本市の教育委員会が学校に対し、子ども達が教科書を必ず毎日持ち帰るようにとの指導は一切していません。あくまでも学校独自でやっているものです。学校が置き勉をするなどという理由は、おそらく家に帰ってから勉強も何もしないと困る、置き勉を許してしまうと教科書を何も持って帰らずに手ぶらで行って、家庭学習を何もしなくなるというようなことから、学校が独自で置き勉を認めないのではないかと思います。

置き勉に関連して、最近問題となっているのが、教科書が非常に大きく、重くなってきていて、子ども達が腰を痛めるのではないかといった報道が一部でされています。腰への影響があれば、学校独自と私ども教育委員会で言っていられませんが、本市ではこれまで実施してきた側弯(そくわん)症検診と併せて、運動器検診を始めました。その検査の中に腰もあり、児童生徒の内科検診診断時に学校医が一次検査を実施し、「所見あり」となれば二次検査の対象として、専門医につなげていくこととしています。

教科書の持ち帰りについては、教育委員会が各学校に対し指導等がなかなかできない部分なのですが、子ども達の健康面で、腰がどのような状態であるかということに関しては、検査などで対応している状況です。

ただ委員がおっしゃるとおり、最近の教科書は紙の質が良くなったり、大きさも大きくなったり、厚くなったりしていますので、本当に重いのが現状だと思います。置き勉については学校独自のもので、学校に直接話をされてみていいのではないかと思います。

自治協委員

教育委員会としては、置き勉については各学校に任せてあるので、例えば市内の小中学校で置き勉が認められているかどうかといった調査は特にしていないということですよ。

教育委員会
事務局

置き勉の調査はしておりません。

自治協委員

そうですか。そうすると、今後、本市で置き勉と健康との関連や研究が話題になるかどうかなのですね。

実は、北海道では置き勉が問題として取り上げられ、国会でも林文部大臣への質疑があり、私は国会議員ではないから分かりませんが、その際に調査し適切に対応すると答弁しているようです。なので、各都道府県の教育長に(文部科学省からの)通達が来ているのではないと思っています。子ども達の健康への懸念に繋がる問題ですので、大事なことではないかと思います。

司 会

ありがとうございました。

自治協委員

本日のテーマにはそぐわないかも知れませんが、別の角度から質問させていただきたいと思います。

去る6月19日の新潟日報の紙面に、世界保健機関(WHO)がオンラインゲー

ムやテレビゲームのやり過ぎで、日常生活が困難になる言語障害が新たな疾病として認定されたと報道されておりました。5月5日の朝日新聞では、学校へ行かず16時間もゲームを行う人はゲーム依存症であり、治療が必要だと報道もありました。また、ネット依存症の疑いに中高生52万人といった見出しで、言語障害のことについても報じていました。

このような時代背景もありますので、各小中学校でもこれらについての取り組みが行われているのだろうと伺っておりますが、本市の教育委員会では、小中高生のネット依存の状況についてどのように把握しているのかをお伺いします。

教育委員会
事務局

ただ今ご質問のありましたオンラインゲーム等々への依存についてですが、地域教育推進課では青少年健全育成の観点から、インターネット利用に関しましては、特に青少年の犯罪被害の防止にこれまで取り組みの力点を置いていました。

この7月が毎年内閣府が定めた非行被害防止全国強調月間で、1カ月間の取り組みが予定されているのですが、その中でも今年度の重点課題の最上位にきましたのが、やはりインターネット利用に係る犯罪被害の防止となっています。昨年までは子どもの性被害の防止が一番上だったので、やはりインターネットと青少年の注目の度合いというのは高いのだと認識をしています。

今、委員からご指摘をいただいたオンラインゲームの依存症というのも、以前から問題にはされていたのですが、ここに来て、にわかに取り上げられたものだと思います。ネットに関する調査につきましては、昨年の12月に生徒指導委員会が中学生を対象にして、どのようなネット環境にあるのかというのを調べています。その調査結果では、中学生の55パーセントが従来型の普通の携帯電話の可能性もありますけれども、何らかの自分専用の携帯端末を所持しており、ソーシャルメディア等を利用しているのがそのうちの6割ということでした。この調査結果の内容につきましては、年々所有率も上がっているのも、そこは教職員もそうだろうという認識があったのですが、気になった項目として、それらの端末を使うにあたって親子の間でルールを決めたのかという質問に対し、約7割はルールを決めて子どもに渡していましたが、残りの3割は特に決めていないとのことでした。これについては生徒指導上、担当者会議に出席した教職員からは、これはまだ問題がある、残りの3割をいかに減らしていくかが課題との認識であったと聞いています。

オンラインゲームの依存というのも親の目に触れないような所で、小さな端末で発生してしまうことだと思いますので、今後はこのゲーム依存の課題についても十分認識をした上で、端末の適切な使い方ということに注視していきたいと考えています。

自治協委員

6月中旬頃に、本市のPTA連合定期総会がありました。その中のワークショップか何かで、PTAの方々が学校を取り巻く諸団体、端的に言えばコミュニティ協議会や民生児童委員などがどういう仕事をしているのか、その役割や任務が分からないという会長さんがいたと聞いています。当然、その話をした方は諸団体を分かっていますが、私からのお願いとして、教職員の研修会などで、できたらコミュニティ協議会の役割や任務、また、民生児童委員はどのようなことをやっているのか、教職員に徹底してもらいたいと思っています。地域課長から、コミュニティ協議会

の認知度は西区で52.3パーセントと聞いていますが、まだまだ学校の教職員の方々に浸透していないのが現状です。いくら私どもが学校と地域の連携を議論していても、教職員が理解していなければ連携がうまくいかないのです、何か研修会等がありましたら地域の諸団体の説明もするようお願いしたいと思います。

もう一つ、ちょっと余談ですけれども、どこの中学校でも職場体験をやっていられると思います。今回、某中学校から区役所に将来公務員になりたいとの話があって、その話の流れの中で地域の茶の間を見学したいという話になりました。今どきの中学生に私は感心し、7月に私の地域の茶の間に中学生が来ることになったので、運営責任者に協力するよう伝えていますが、生徒達ももっと学校以外の地域へ出て、そういう体験をした方がいいのではないかと私は思っています。

司 会

ありがとうございました。皆さまからいただいた貴重なご意見、ご提案につきましては、これからの教育行政の参考にさせていただきます。

最後に、教育委員の皆さまより、本日の教育ミーティングについての感想を一言ずついただければと思います。初めに、沢野委員、お願いいたします。

沢野
教育委員

はい。本日はどうもありがとうございました。防犯、その他において疑問、提案、そして細かい現況などをいろいろお話しいただき、ありがたかったです。これをまた持ち帰りまして、教育委員で共有していきたいと思います。これからどうぞよろしくをお願いいたします。どうもありがとうございました。

上田
教育委員

はい。本日はどうも貴重なご意見をいろいろありがとうございました。機会があったらお話させていただこうかと思っていたのですが、皆さんは子ども達が危険な状態になった時に使用する防犯ブザーの音を聞いたことがありますでしょうか。もし聞いたことがなければ、どんな音がするかぜひ一度聞いてみてください。また、皆さんからもこの防犯ブザーの音が聞こえたら、すぐ助けに行くか、ひと声かけていただくと、子ども達も安心して防犯ブザーを鳴らす紐を引けるかと思しますので、よろしくをお願いします。

また、通学路等における危険箇所の総点検の話の中で、こども110番の家の話が出ていましたが、いろんな地域で、今までお願いしていたこども110番の家になっていたお店がもう閉鎖していたとか、こども110番の家が子ども達の入りにくい場所であったり、高齢になって難しくなってきたりといった話をよく聞きます。なので、ぜひそういったところも併せて確認し、子ども達が入りやすいような所や、入りやすい工夫をした所を新たに110番の家にできないかも含めて、安全マップづくりに取り組んでいただいてもいいのかなと思いました。

先ほど防犯といった話の中で、雪の話も出ていました。確かに今年は、この西区の降雪量は結構あったのではないかなと、皆さんからの意見を聞いて思ったのですが、その時に子ども達はどう通学路を確保したんだろうかと思いました。もしそういった状況で、通学路で危険な箇所があった時はどうしたらいいのかということ、改めて保護者や学校に相談していただければと思いました。今日はどうもありがとうございました。

議 事

5 西区自治協議会会長挨拶

本日の教育ミーティングでは、西区の痛ましい事件を機に全国で実施が決まり

ました「通学路等における危険箇所の総点検」に関する説明を受けました。今年度の教育委員会の施策についても具体的に説明をいただきました。

なお、当コミュニティ協議会で起きた事案であり、先般の日曜日、学校においてコミュニティ協議会と学校の共催で地域のワークショップを行いました。学校、保護者、地域、県警、行政が一堂に会して、危険箇所の洗い出しや安全対策の検討、そして学校と地域の連携について意見交換を行いました。コミュニティ協議会としても、学校と地域の共通した地域課題に向かい、さらなる連携をリレーしていきたいと思っています。

また、教育長から説明のありました新潟市の教育ビジョンの根幹に関わる、学・社・民の融合による教育の推進に向けた取り組みについて、自治協議会委員から活発な意見を交え、沢野教育委員、上田教育委員をはじめとする教育委員会の皆さま方から、私どもの意見、質問等について回答いただき、誠にありがとうございました。

私ども区自治協議会の役割は、区民の皆さまの多様な意見を調整及び取りまとめをして、区民の皆さまと市との協働の要になるものと信じています。これからさらなる連携を持って、子ども達の安全、また地域の安全のために尽くしていきたいと思えます。今日は皆さま方、どうもありがとうございました。

6 閉会